

最終評価報告書暫定版のとりまとめ状況について

1 スケジュール（予定）

時期	対応	県民会議	施策調査専門委員会	県
令和3年9月	内容検討① [作成方針（案）、スケジュール、構成案等]		○	
令和4年2月	内容検討（構成案）		○	
7月	内容検討（スケジュール）		○	
9月	内容検討（構成案確定）		○	
11月	県民会議	○		
令和5年2月	施策委員会 内容検討		○	
3月	県民会議	○		
4月	施策委員会勉強会		○	
5月	施策委員向け意見照会（メール）		○	
7月	施策委員会 内容検討（たたき台）		○	
8月	県民会議 たたき台提示	○		
9月	施策委員会 内容検討（修正案）		○	
11月	県民会議 修正案提示	○		
11月	県民会議 施策懇談会	○		
12月	施策委員会 事業チーム等報告		○	
令和6年2月	施策委員会 最終案の作成		○	
3月	県民会議 / 県知事へ提出	○		

2 各委員からいただいた意見一覧

	吉村委員長	太田委員	羽澄委員
はじめに			水源の図について拡大して掲載した方が良い
目次	この最終評価書は分厚くなりますので、概要版（10頁以内）でも作成すると良いと思います。 そうすると、本文、概要版、資料編、意見書という4点での構成となりますね。		
第1部			
第2部	大綱の目的、理念、対象地域、体系などの評価の基盤となる要点を具体的に記載すべき（大綱からコピーすれば十分です）。この全体方針は、今後の展開（4部）を考える上でも不可欠です。		
第3部	指標以外の情報も盛り込み、各環境の状態を説明したい（主に面的分布と経	県民会議による検証・評価がなされていることを示す	

	<p>時変化（渇水、平水、洪水）。また、各事業の取り組みとの対応が明確になるように説明を追加すべき。</p>	<p>め、県民会議委員の引継書のコメント等と自然科学的な評価とを結びつけて評価することが望ましい。</p>	
第4部	<p>第4部 今後の水源環境保全に向けた見通しと課題</p> <p>1. 環境と社会の動向 （施策開始後に発生した新たな課題。そして、今後20年30年の人口、社会、水資源、自然、国や他県の動向、国際動向など。森林環境譲与税、水循環基本法、気候変動対策、グリーンインフラ、生物多様性条約などが思い浮かびます。）</p> <p>2. 神奈川県の水源地環境保全：長期目標像と施策 （今後の見通しを踏まえた目標像の提示と維持管理の大枠（県民参加の形や隣県との関係も含め）、この20年間の施策大綱の理念に相当する内容を書くべき）</p> <p>3. 継続が必要となる取り組み （単純に大綱事業を終了した場合に大きな問題となる内容を記載。たとえば、順応的管理や県民参加の枠組みは継続すべきです。）</p> <p>4. 新たに必要となる取り組み （環境と社会の動向を踏まえて、今後の水源環境保全において求められる新たな視点や新たな施策・取り組み）</p> <p>気候変動、シカ対策は第3部で現象や課題を具体的に記載（総合評価の一部という位置づけにすべき）。総合的な評価にこの2点も直接関係しますので。 その上で、第4部で今後の課題として整理。</p>		